



森林再生に効果的な鹿排除柵の設置方法

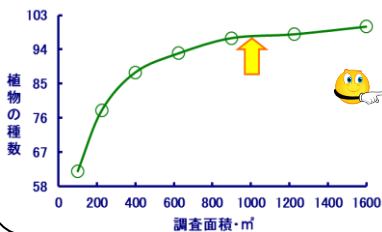
【背景】ニホンジカ(以下、シカ)は、森林再生にも影響を及ぼしています。一方、鹿排除柵の設置を確実に行えば、裸地化した条件でも森林再生に効果のあることがわかっています。しかし実際には、鹿排除柵が設置された場所でもシカが侵入し、森林が十分に再生していないケースが多く見受けられました。

【目的】森林再生を確実に行うために、鹿排除柵の大きさや形状、その設置場所をどうすればよいか検討しました。

【成果】鹿排除柵の大きさは約1,000㎡、形状は丸形あるいは正方形、設置場所は勾配が緩やかになる斜面部と谷部に設置すれば、効果的にシカを排除でき、多様性の高い森林再生が図れることを明らかにしました。

Q. 柵の大きさは？

A. 1,000㎡程度の小面積柵を複数個



面積が1,000㎡を超えると、植物種数は増加せず、多様性の高い森林を再生するうえで、効果的とは言えません

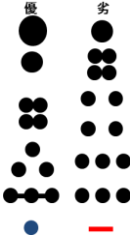
一方、大面積柵で囲い込んでしまうと...

- ✓ 鹿柵が破損する危険性が高くなる
- ✓ 維持管理が行き届かない
- ✓ 野生動物の移動経路を遮断してしまう

といったデメリットがあります

Q. 柵の形状は？

A. 丸形 あるいは 正方形



生物生息空間の形状には6つの原則(ピオトープネットワーク理論1975)があり、その形状は、線上よりも丸い方がよいと言われています

さらに、丸形の柵には...

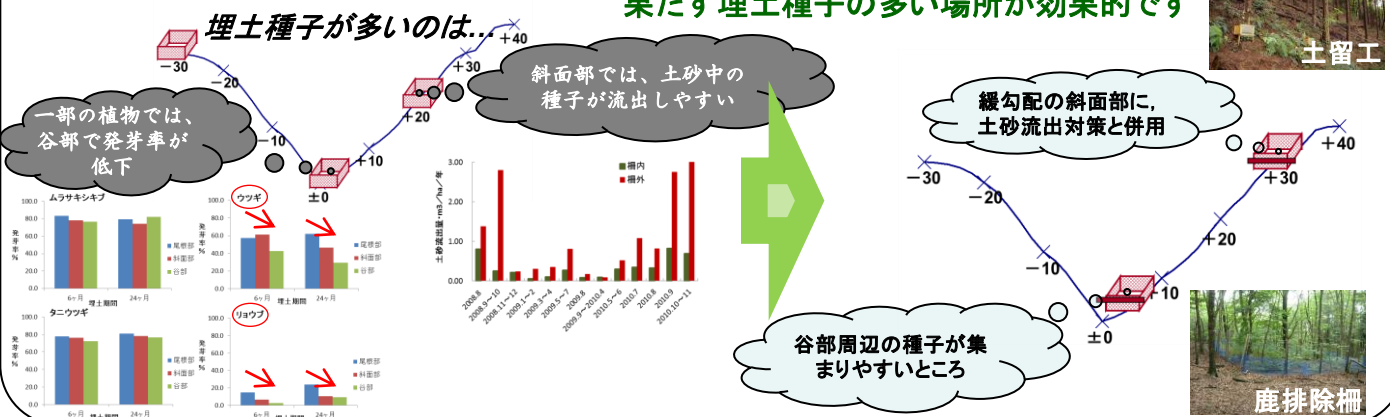
- ✓ 同一面積であれば、外周が短くなり、設置費用の軽減につながる
- ✓ 施工が難しければ、正方形でも同様の効果

といったメリットがあります

Q. 柵の設置場所は？

A. 緩勾配の斜面部と谷部

柵の設置は、森林再生に重要な役割を果たす埋土種子の多い場所が効果的です



【技術の活用】 伐採地や広葉樹林整備地において、効果的な鹿排除柵を設置することによって、埋土種子や散布種子と、植栽木や萌芽個体の組み合わせによる森林再生を図ることが可能となり、多様性の高い豊かな森や災害に強い森を創ることができます。